

「高松ぶどう」栽培 100 周年を迎えて

県央農林総合事務所

かほく市高松の砂丘地で栽培している「高松ぶどう」は、市村栄次郎氏がデラウェアの苗木を植えてから 100 年の節目を迎えることから、生産者や関係機関から 100 年を祝う機運が高まりました。このことから、高松ぶどう生産組合、かほく市、JA、農林総合事務所が参画した「高松ぶどう 100 周年記念事業実行委員会」を立ち上げ、記念式典の開催、記念誌の発行について企画運営や準備等を支援しました。

100 周年記念式典は、2019 年 2 月 9 日に生産者・関係者など 180 名余りを参集して盛大に開催されました。地元高松中学生が「高松ぶどう」について総合学習で取り組んだ内容の発表や、市村栄次郎氏がぶどう栽培を始めた頃の苦労話を再現したビデオ上映等により、これまでの歴史を振り返り、今日の高松ぶどうブランドを築いた先人達への感謝の思いを強くしていました。さらに、若手生産者代表が今後の 100 年に向けた決意表明を行い、盛会のうちに式典を終えました。

記念誌「高松ぶどう百年史」は、100 年の歴史を次の世代に伝え残すために編纂したもので、黎明期から現在までの各時代における先人達の努力の足跡を記録しました。また、各世代ごとに、思い出話やぶどう産地発展に向けた想いについて語りあった内容を記載しています。

これら記念式典や記念誌発行をきっかけとして、これまで以上に産地の絆が強くなったと感じています。これを機に、今後も関係機関と連携し、高松ぶどう産地の担い手の育成や産地活性化に取り組んでいきたいと考えています。



記念式典での決意表明



記念誌に掲載された生産者の記念写真

問い合わせ先：県央農林総合事務所 津幡農林事務所
(076-289-4158)